

I 平成 28 年度事業の成果と課題

11 年目を迎えた食育サポートセンターは認知度も上がり、活動回数は、年間 20 回程度と安定した回数を推移している。平成 28 年度も、県内一円から多様な団体から派遣依頼を受け、各団体の催しに協力することができた。依頼元からいただいたコメントも良好で、あすなる隊の活動は県内で認められていると考えられる。

これまで食育サポートセンターが佐賀県との協定に基づき開催してきた「食育推進リーダー養成講習会」は、平成 28 年度より「食育推進交流会」と装いを新たにした。主に関東で活躍されている新田美砂子氏（有限会社コートヤード 代表取締役）をお招きし、外から見た佐賀の食の魅力を語っていただき、佐賀独自の食育活動についてのヒントを得ることができた。続いて行われたパネルディスカッションでは、佐賀の生産者、加工業者、大学から事例紹介をしていただき、有意義な交流の場となった。

もう 1 つ新たな活動として社会福祉学部と健康栄養学部の学生と教員が協力し合い、「チャレンジ幸齢セミナー」を開催した。健康栄養学部の教員が社会福祉学部の学生に調理技術を指導するなど、学部を超えた連携のモデルケースとすることができた。

また今年も、食育サポートセンター独自の活動としての「食まなび塾」を吉野ヶ里町の協力により、三田川児童館にて 3 回に渡り開催させていただくことができ、本学学生が小学生と一緒に活動することで実践の学びの場とすることができた。

一方で気がかりなのは、あすなる隊員の減少である。2 年生は 54 名、3 年生は 35 名、4 年生は 40 名と多くの参加がある中、1 年生は 3 名と極端に少なかった。1 年生のうちから積極的に参加することを促すため、授業やポータルサイトなどを通じて学生への周知を行き届かせる必要がある。

主な成果

- ①「食育サポートセンター」が食育の拠点として地域に定着している。
- ②佐賀県との協定による「食育推進交流会」を成功裏に開催できた。
- ③吉野ヶ里町の協力により食育講座「食まなび塾」を通して、三田川児童館で食育活動を展開することができた。
- ④保育園、小学校、地域での食育活動に参画することで、学生が異世代交流を体験できた。

課題

- ①学内各部門の教員が連携し、個々の専門性を生かし、あすなる隊へ助言、指導を行い、食育プログラムの構築について更に積み重ねていく必要がある。
- ②1 年生に対し重点的に活動への参加を促し、活動を通して学生の意識変容を促す必要がある。

平成 28 年度食育サポートセンター事業評価及び課題

事業区分	担当事業	事業評価	課題
推進体制	<p>食育サポート運営委員会の主宰</p> <p>学内組織への参画</p> <p>学生食育ボランティアの組織体制</p> <p>県の委託事業等の実施</p>	<p>委員会には、部会が設置できることから実務レベルの作業部会において、各事業の企画について円滑に取り組むことができた。</p> <p>今年度は佐賀県との協定による「食育推進交流会」や吉野ヶ里町との協力による「食まなび塾」など新たな活動を円滑に進めることができた。</p> <p>「チャレンジ幸齢セミナー」を社会福祉学部と健康栄養学部とで連携し、互いに協力しながら開催することができた。</p> <p>平成 28 年度学生食育ボランティア「あすなる隊」 隊員数は 132 名であったが、平成 27 年度の 206 名から減少しており、活動する隊員が固定化している傾向が見受けられる。</p> <p>県より受託し実施していた「食育リーダー養成講習会」から変わり、今年度「食育推進交流会」として初めての開催となった。地域の食材を活用した食育活動による人づくり、まちづくりで大切なこと、「繋がり」「共感」「共創する」食育活動、SNS による情報発信の工夫の必要性等、今までとは違った視点から考えるよい機会となった。農業生産者や企業、大学でのそれぞれの立場での食育活動の情報も得ることができ、今後、生産現場・地域で活動するふるさと先生や食生活改善推進員等、食育推進に関わる関係者等が食育活動を行う上で、さらに共感できる仲間と繋がっていくことを期待する。</p>	<p>学生組織の強化と自主活動を推進していく必要がある。</p> <p>自治体や構成団体との連携を強化する必要がある。</p> <p>学外活動体験に関する学内の連携が引き続き必要である。</p> <p>あすなる隊体験のポイントを見直すなど、1 年生の活動参加への動機付けや、支援の必要がある。</p> <p>今回は食育を通じた人づくり、まちづくりがテーマであった。今後はさらに、食品を通じた健康づくり、食品ロスについて等、第 3 次食育推進基本計画に関連したテーマでの実施を検討する。</p> <p>また、開催場所、交流会の方法等の工夫が必要と考える。</p>
食育プログラム構築のための活動	学園祭での食育体験コーナーの出席	<p>大学祭において、例年通りのコーナーと本年度は熊本地震が発生したことから非常食・備蓄食材の展示と実演などを行った。運営は教員とあすなる隊の学生およびあすなる隊体験の 1 年生ボランティア学生で実施した。親子連れや高齢者の来場が多く、関心の度合いも高かった。特に非常食の実演に関しては、作り方や試食後の感想も好評であった。</p>	<p>学生が自らの企画・実施計画などを立てるためには、前期の早い時期から募集を行い、準備をしていく必要があると考える。</p>

事業区分	担当事業	事業評価	課題
食育プログラム構築のための活動	教材の開発及び貸出	<p>実用新案に登録された「食育カード」は、わかりやすい食育教材として、県内外の食育活動に幅広く活用されている。</p> <p>食事と運動のエネルギーバランスをわかりやすく学習するための教材「食育てんびん “はかるくん” (実用新案登録)」については、県内外からの貸出のニーズが高まってきた。</p> <p>各種教材、機器の貸出は、平成 27 年度と比べ 32 回から 24 回と減少したが、楽しく分かりやすい教材として利用されている。</p>	<p>今後も佐賀県ならではの教材の開発を行う必要がある。</p> <p>「食育てんびん “はかるくん”」の商品化を検討する必要がある。</p>
	保育所・学校での活動	<p>地元児童館や小学校、中学校、高等学校の食育活動を支援した。活動を通して学生は、食育の大切さ、食事のアドバイスをする喜びを感じることができた。</p>	<p>活動対象の選定、継続教育の検討も行う必要がある。活動前の学生の準備やミーティングを通し、円滑な活動に繋げる必要がある。</p>
	地域での活動	<p>28 年度は、吉野ヶ里町の子ども達への食育講座「食まなび塾」を実施し、地域の食育推進に貢献した。</p> <p>活動を通し、地域の子ども達とのコミュニケーション力の向上、対象者にあった教材作成の重要性を学ぶことができる学生主体の食育活動の良い機会となった。</p>	<p>今後も神崎市及び大学周辺地域への支援を継続していく必要がある。</p>
	活動の評価	<p>平成 28 年度も学生による自己評価に関する意識調査を行った。これによると、平成 27 年度と比べ、企画力、コミュニケーション力、実践力が向上していた。</p>	
食育サポートセンター運営	<p>広報活動</p>	<p>本学のホームページのトップに「食育サポートセンター」の活動報告を随時掲載し、情報発信を行っている。 (http://www.nisikyu-u.ac.jp/food/)</p> <p>平成 27 年度に引き続き、家族だんらん 2016 「家族だんらんカレンダー」に食育サポートセンターの教材が掲載され、県内小学校新 1 年生に配布された。県内全域に食育サポートセンターの活動の一端を紹介することができた。</p>	<p>今後は更に、学外からのニーズに対応した情報提供の体制の充実を図る必要がある。また学内に対してはポータルサイトなどを通して、学生の参加呼びかけを強化する必要がある。</p>

学生食育ボランティア「あすなろ隊」活動者の自己評価結果

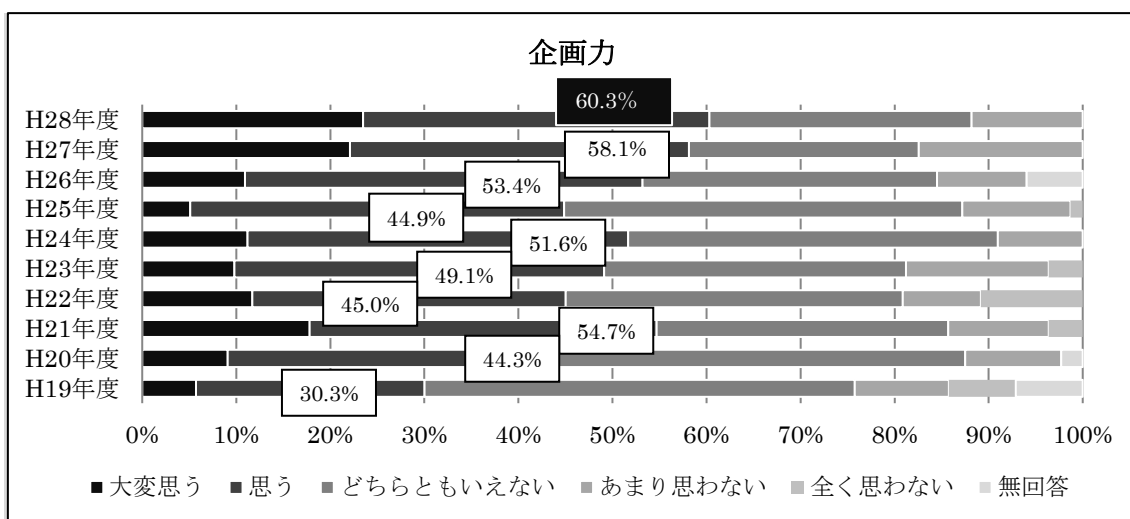
○自己評価の方法

対象：平成 28 年度にボランティアとして食育活動に参加した学生 75 名

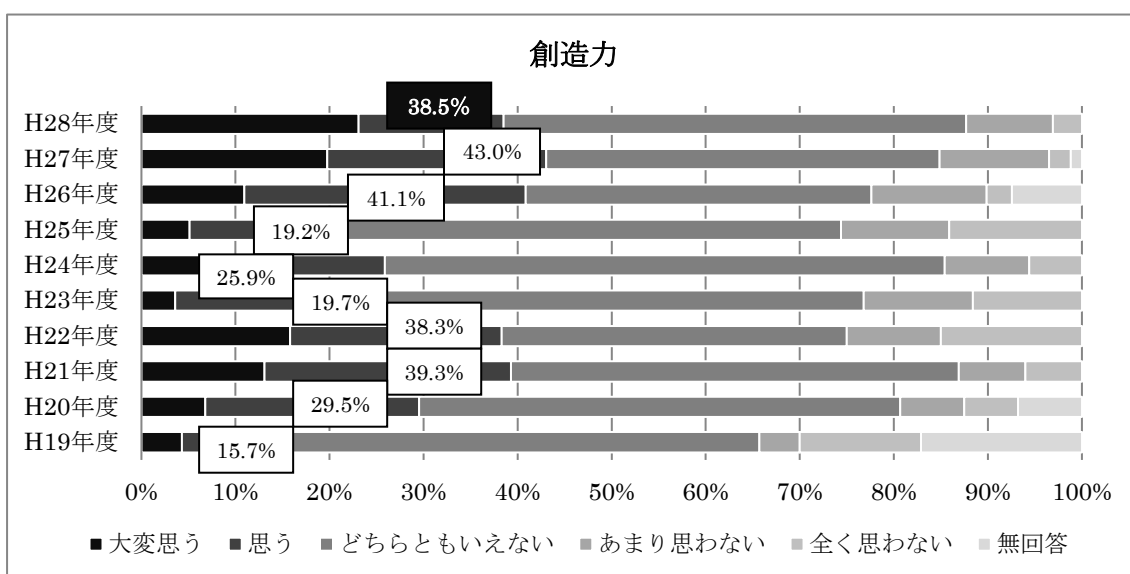
方法：企画力、創造力、コミュニケーション力、協働力、実践力の 5 つの項目について、自記式により 5 段階（5.大変思う、4.思う、3.どちらともいえない、2.あまり思わない、1.全く思わない）で評価

※表中のパーセンテージは、「5.大変思う」と「4.思う」の回答数の比率を示す。

◆**企画力**：活動を行うに当たっての一連の計画を立てる力や活動を円滑に進めていくための事前準備ができた。

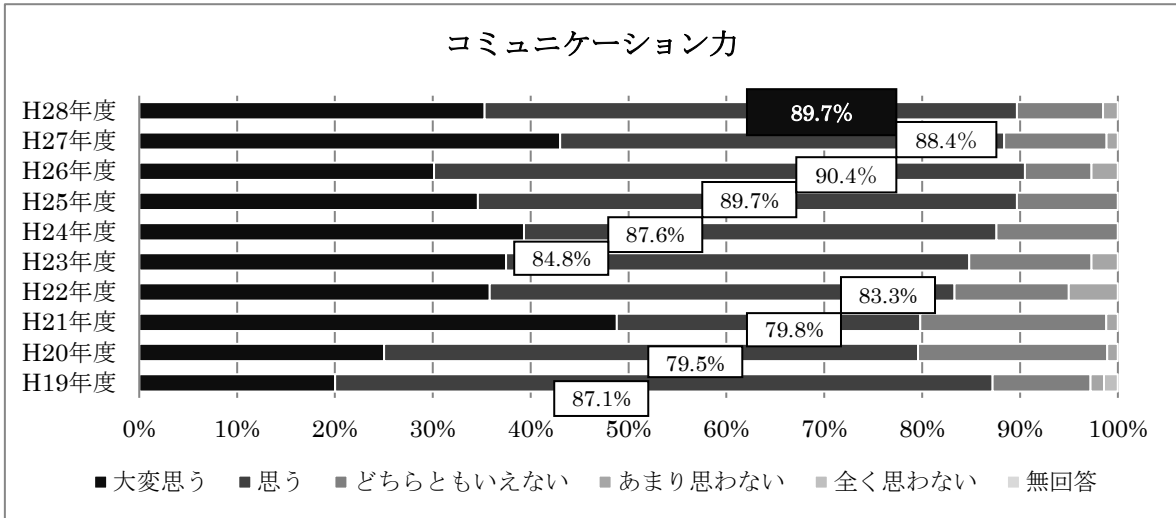


◆**創造力**：隊員のアイデアを実現させ、活動に活かせる工夫が必要である。

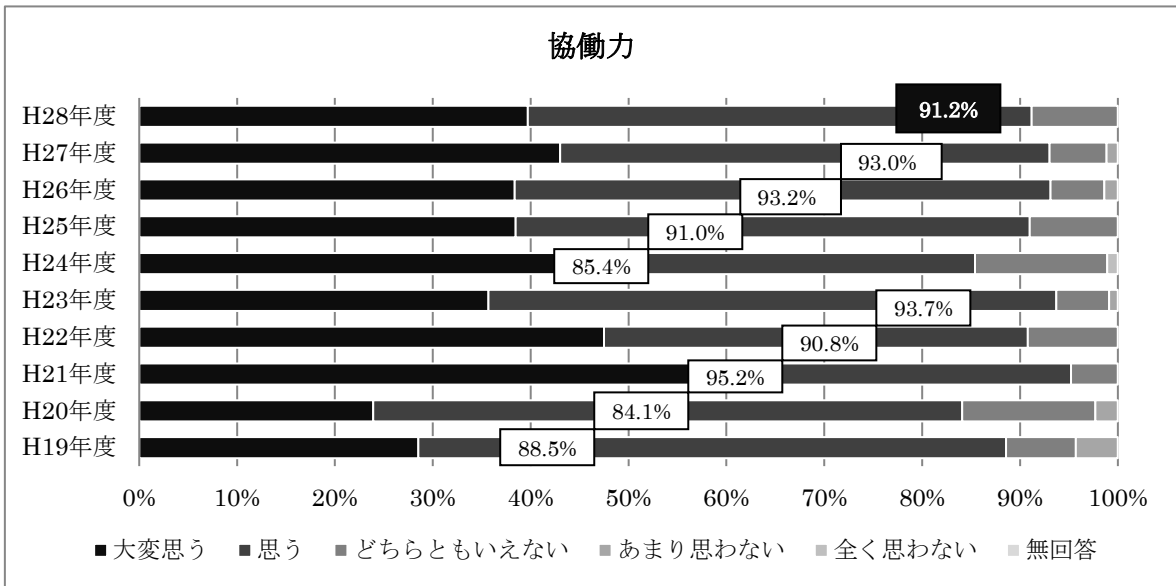


◆コミュニケーション力：

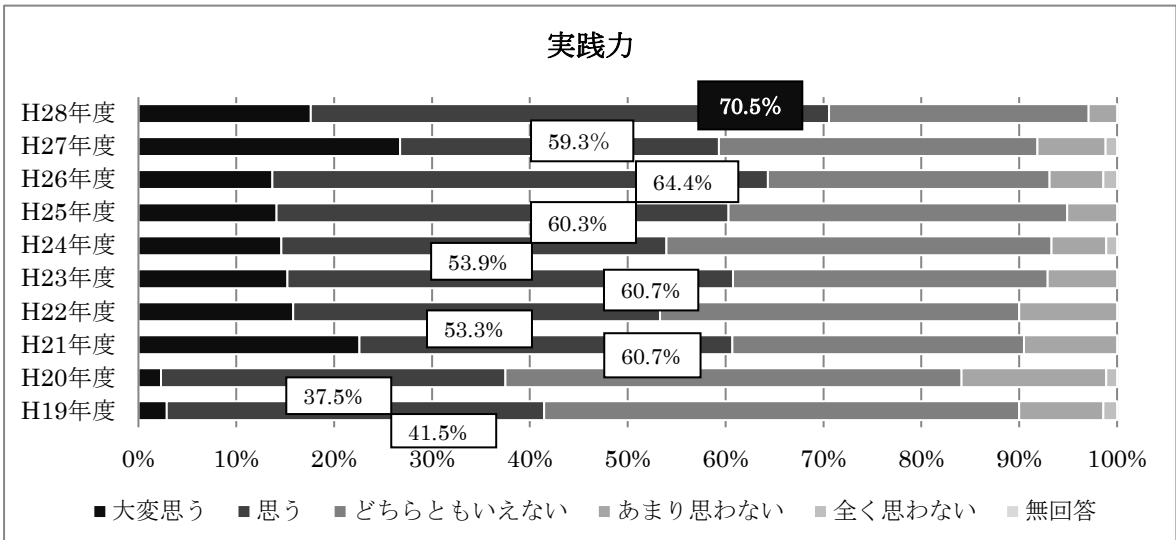
教育現場や地域での活動を通して、初めて接する子ども達や地域の方達とのコミュニケーションのとり方を身に付ける場として活用されている。



◆協働力：活動現場において、仲間や指導教員等との協働力が高いレベルで定着している。



◆実践力：着実に実践の場としての食育活動が伸びてきている。



II 味覚教育

味覚は、ヒトの五感の一つであるが、将来管理栄養士になった場合に必要な能力の一つともいえる。健康栄養学科では、平成 19 年度から 1 年生を対象として食味テストを行っている。また、この検査は佐賀県産の極上海苔「有明海一番海苔」を選定する食味検査員の認定試験を兼ねている。「有明海一番海苔」は、県と県有明海漁協が平成 19 年度から売り出された極上海苔で、消費者の視点から味を厳選してもらおうと検査員が募集された。学生にとっては、佐賀の特産である海苔について学ぶとともに、本物の海苔を味わうよい機会となっている。食味テストには、閾値に調製した塩化ナトリウムやカフェインなどの水溶液 5 種類と無味の水を飲み比べ、甘味、塩味、酸味、苦み、旨味を識別するという味覚テストと、3 種類の海苔を食べ比べて柔らかさの順序を判定する柔らかさのテストがある。味覚テストでは 4 味以上正解するか、3 味を正解し残りの 2 味で水を選択しなかった場合、さらに、海苔の柔らかさのテストでは、柔らかさの順序をすべて正解した場合に合格となり、「有明海一番海苔」食味検査員認定証が交付されることになっている。

今年度は、平成 28 年 7 月 13 日に実施し、1 年生 111 名が受験した。このうち、20 名が合格し、合格率は 18%と低かった。これまでの食味テストの結果を図 1 に示す。累計すると受験者は千人を超え、合格者の合計は 283 人となった。合格率については、用いた海苔が毎年異なったりすることから単純に比較はできないが、平均すると 2 割から 3 割が合格となっており、難関の認定試験ともいえよう。

この検査を通して、日頃の味付けを薄味にしようと考え直す学生もおり、味覚の重要性が伝わったと思われる。また、佐賀海苔のおいしさを知ることによって、消費が低迷している海苔の普及と消費拡大、つまり地産地消の推進にも貢献できたのではないかとと思われる。

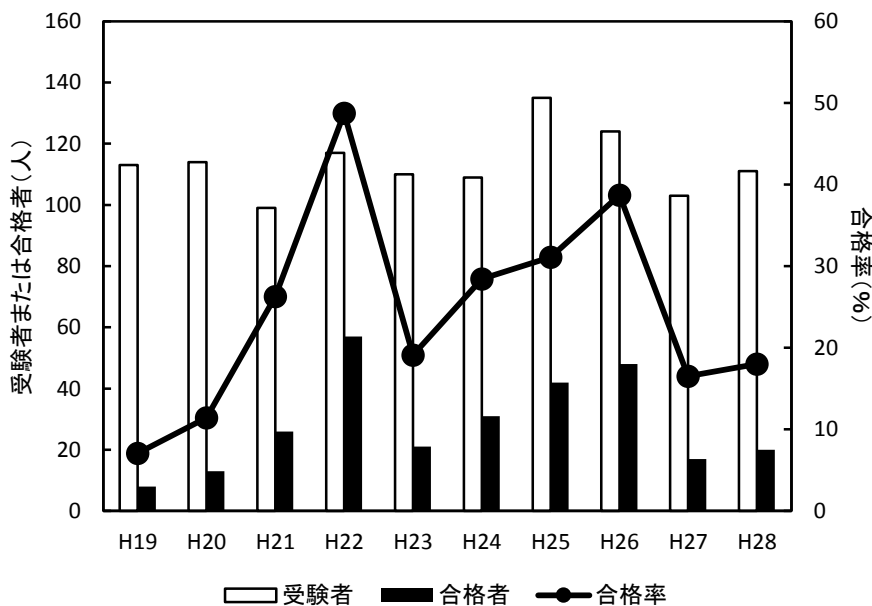


図 1 食味テストの結果の推移

Ⅲ 学生食育ボランティアあすなろ隊

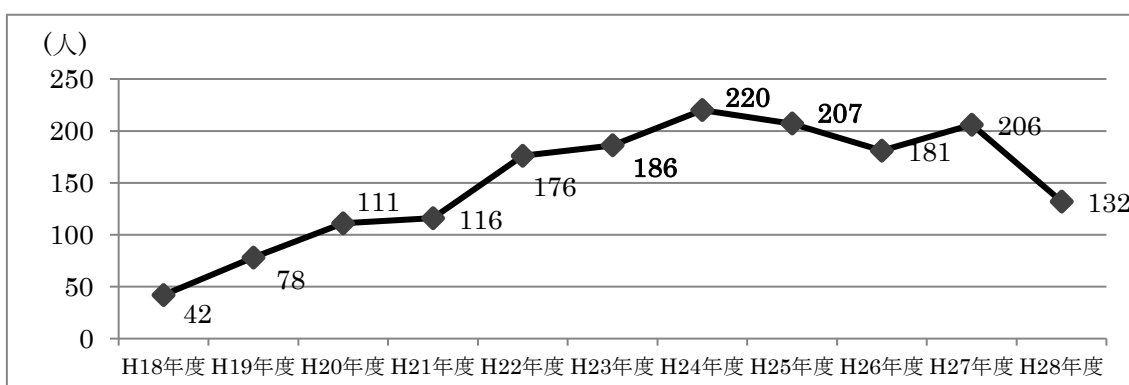
1. 隊員構成

永原学園の教育理念を象徴する言葉『あすなろ（翌檜）』は、学生が自らの可能性を信じ、自らの力によって、その持てる才能を開花させ、将来の大きな目標に向かって突き進む姿勢を意味する。

「学生食育ボランティアあすなろ隊」は、西九州大学に在籍する学生の有志で構成されており、施設や自治体の行事やイベントへ参加し、“あすなろう”の精神で、食の体験活動をサポートしている。

現在、1年生3名、2年生54名、3年生35名、4年生40名の計132名の有志が活動している。（平成29年3月）

◆あすなろ隊員数の年次推移（平成18年度～平成28年度）



◆あすなろ憲章

私達あすなろ隊員は、以下の項目を遵守し、県内の保育園、学校、地域における食育推進ボランティア活動を通し、自らの資質・能力を向上させるとともに、子どもを中心とした食育の充実を図り、豊かな人間性や生きる力を身に付けさせ、地域の食育活性に取り組むことを誓います。

第一

保育所、幼稚園などで行われる食育活動に可能な限り積極的に参加し、西九州大学生としての誇りを持って活動します。

第二

現場での活動に関しては、幼児や児童の安全を第一に行動するとともに、自身並びに協働する方全員の安全を念頭において活動します。

第三

活動の推進にあたっては、指導教員・関連機関の指導を遵守しながら、自ら積極的に行動します。

第四

幼稚園、学校などの教育現場においては、現場の先生・職員の方々の指導に従い、協調して活動を進めます。

第五

講義で身に付けた知識・技術に加え、食育ボランティア活動を通して企画力・創造力・社会貢献力に更に磨きをかけ、自分の力とします。

IV 平成 28 年度の活動報告

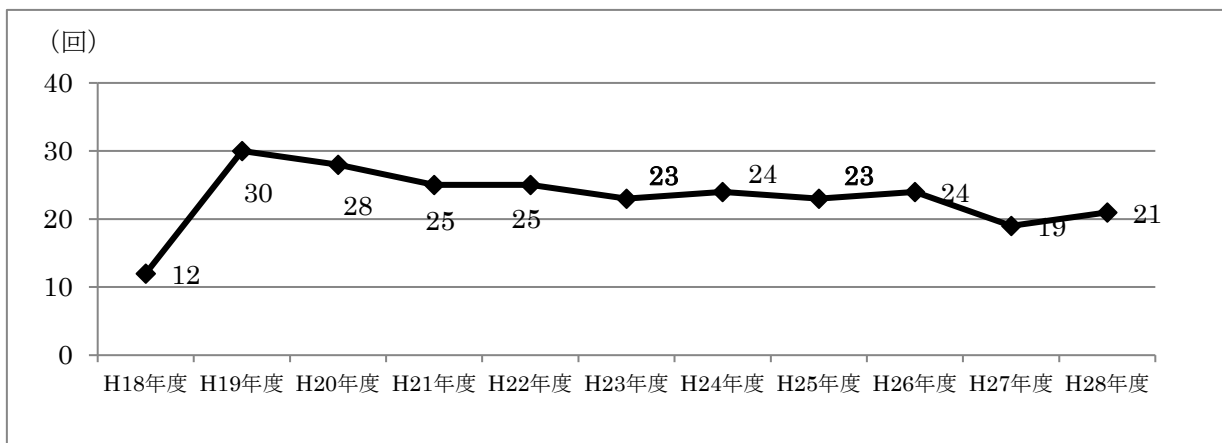
平成 28 年度食育サポートセンター・あすなろ隊活動一覧

	活動場所	活動日	行事名	活動者数	あすなろう 体験履修者等
1	地域	4月24日(日)	小城普茶料理食事会～春	あすなろ隊2名	
2		5月28日(土)	消費者月間フェア 2016	あすなろ隊3名 教職員3名	
3		5月29日(日)	神崎市子どもまつり	教職員5名	リハビリテーション 学科10名
4		8月18日(木)	食まなび塾①	あすなろ隊3名 教職員3名	
5		8月26日(金)	食まなび塾②	あすなろ隊5名 教職員3名	
6		9月2日(金)	小城市普茶料理教室	あすなろ隊2名	
7		9月3日(土)	食まなび塾③	あすなろ隊5名 教職員3名	
8		10月2日(日)	NPO 法人日本健康運動士会 九州ブロック事業佐賀県大会	あすなろ隊1名	
9		10月16日(日)	ばぶばぶフェスタ	あすなろ隊1名 教職員2名	健康栄養学科2名 リハビリテーション 学科2名
10		11月20日(日)	小城普茶料理食事会～秋	あすなろ隊4名	
11		11月27日(日)	日曜糖尿病教室及び糖尿病・ 肝疾患市民講座(唐津)	あすなろ隊4名	
12		12月3日(土)	市民フェスタ 2016in とす		健康栄養学科2名
13		12月4日(日)	男性・子供の料理教室		健康栄養学科2名
14		平成29年 2月7日(火)	食育推進交流会	教職員11名	
15	教育現場	6月16日(木)	鳥栖工業高等学校定時制 での食育講話	あすなろ隊4名 教職員2名	
16		9月7日(水)	神埼保育園でのお茶教室	あすなろ隊5名 教職員2名	
17	本学	6月25日(土)	チャレンジ幸齢セミナー Aグループ	あすなろ隊3名 教職員5名	健康栄養学科1名
18		7月9日(土)	チャレンジ幸齢セミナー Bグループ	あすなろ隊1名 教職員5名	健康栄養学科3名
19		10月22日(土) ～23日(日)	学園祭 「食育体験コーナー」	あすなろ隊5名 教職員9名	健康栄養学科7名
20		12月17日(土)	ほっとひろば西九大 クリスマス会	あすなろ隊2名 教職員2名	健康栄養学科2名
21		6月21日(火) ～通年	海苔の紙芝居作成	あすなろ隊7名 教職員2名	

◆平成 28 年度食育サポートセンター・あすなる隊活動の県内分布



◆活動回数の年次推移（平成 18 年度～平成 28 年度）



1. 活動報告①（平成 28 年度食育推進交流会）

- 目 的
- ・「西九州大学、佐賀県及び佐賀県教育委員会における食育についての連携・協力協定書」第 2 条第 2 号に基づき食育推進交流会の実施。
 - ・栄養、調理、農業分野などの食育を、総合的かつ効果的に推進する人材を育成。
 - ・食育関係者のネットワークの構築。保育所、幼稚園、学校、地域等における多様な関係者が、互いに連携・協議することで食育推進の実効性を高めることを目指す。

実施主体 佐賀県・西九州大学食育サポートセンター
 開催日時 平成 29 年 2 月 7 日（火） 13 時 00 分～16 時 00 分
 開催場所 佐賀県立美術館
 参加者数 162 名



（ヘルスマイト 29 名、ふるさと先生 10 名、学校関係者 13 名、幼稚園関係者 5 名、保育所等児童福祉施設関係者 31 名、市町行政関係者 11 名、県行政関係者 8 名、その他（企業、食品会社等）40 名、佐賀県庁職員 4 名、西九州大学関係者 11 名）

交流会内容 メインテーマ「佐賀の食育を通じた元気な人づくり、まちづくり」

時 間	内 容	場 所
13:00	開会 主催者挨拶（県・大学） 佐賀県くらしの安全安心課課長 中原吉朗 氏 西九州大学食育サポート運営委員長 石松 秀 氏	佐賀県立美術館 ホール
13:10	講演 「地域を育む魅力的な食づくり」 講師：有限会社 コートヤード 代表取締役 新田美砂子 氏	
14:10	休憩	
14:20	パネルディスカッション あいちゃん農園 代表取締役 森田浩文 氏 佐賀県味噌醤油醸造協同組合 代表理事 宮島清一 氏 西九州大学 健康栄養学部 教授 安田みどり 氏	
15:10	ブース紹介	
15:20	交流会 ブースの展示等	
16:00	閉会	

実施評価

「佐賀の食育を通じた元気な人づくり、まちづくり」をメインテーマとして講演とパネルディスカッションを実施した。

講演は、「地域を育む魅力的な食づくり」というテーマで、地域資源を活用した商品開発やメニュー開発のコンサルティング等、幅広く活躍されている、有限会社コートヤードの新田氏にお話いただいた。地域づくりの食育とは、「美味しい」を誰かと分かち合うことであり、周囲を巻き込んで「仲間ゴト」にすること、その鍵は、「繋がり」「共感」「共創する」ことである。また、現代は情報が共感により拡散していく時代であり、SNSを使った情報発信の工夫も必要であることを再確認させられる内容であった。

パネルディスカッションでは、「佐賀の食育を通じた元気な人づくり、まちづくり」のテーマであいちゃん農園の森田氏、佐賀県味噌醤油醸造協同組合の宮島氏、西九州大学の安田氏から、農業生産者、企業、大学のそれぞれの立場での食を通じた活動について紹介があった。農家としての想い、企業が実施している食育授業や高校生とコラボした商品開発、大学での地域の食材を使用した商品開発、苦労話等知ることができた。佐賀にはこんなに頑張っている人たちがいて、地域の活性化に取り組んでいるということ、佐賀のものづくりは質が高く、自慢できるものであり、もっとみんなで共感しどんどん情報を外へ発信していくことの必要を感じさせられた。

また、NPOグループや企業、大学等の食育活動が紹介され、展示ブースでの出汁の試飲、商品開発したスープや菓子の紹介など、参加者同士での情報交換ができ、よい交流の機会となった。今後、各団体、職場での食育活動や職場での業務に活かされること、さらに共感できる仲間と繋がっていくことを期待する。



佐賀新聞

平成 29 年 2 月 17 日



佐賀新聞社

「共感」大事に
食育活動学ぶ
専門家講演、交流会も
佐賀市 食育推進を
テーマとする
交流会が佐賀市の県立美術
館ホールで開かれた。地域
資源を生かしたメニュー開
発などを支援する「コート
ヤード」の新田美砂子社長

「写真」が講演し、管理栄養士や学校関係者、農業関係者ら約160人が「共感」を大事にした食育活動について学んだ。
新田さんは、映画を見て共感した人がSNS（会員制交流サイト）で発信し、ヒットした映画「この世界の片隅に」を例に「食育を広めるにも共感が必要。共感には人を動かす力がある」と強調。「共感した周りの人たちを巻き込んで、長く続く活動を」と呼び掛けた。
参加した高峰中学校（唐津市）の白石知佳教諭（36）は「周りの人を巻き込んで活動することが必要だと感じた。どのような方法でどのようなチームを作りたいか考えながら聞いた」と話していた。
会場には大学や企業がブースを出して活動を紹介。西九州大学がヒシを使って開発した「ひしぼろろ」や栄養士OBと県味噌醤油醸造協同組合が共同開発した食塩不使用の「元気だし」などが展示された。



（花木美美）

2. 活動報告② (学生食育ボランティアあすなろ隊派遣活動)

1) 小城普茶料理食事会～春

活動内容：伝統料理普及活動の支援（調理・盛り付け・配膳・接待・後片付け）

活動日時：平成28年4月24日（日） 9時～16時

場 所：小城公民館晴田支館（小城市）

対 象 者：食事会にお越しのお客（約60名）

活動者数：あすなろ隊2名

依 頼 元：祥光山星巖寺伝承「普茶料理おぎ春香会」



《あすなろ隊の感想》

- ・初めて普茶料理に触れて、料理構成や名前など知らなかったことをたくさん知ることができた。秋の普茶料理教室にも参加したいと思った。
- ・普茶料理を初めて体験して、春香会の方も大変親切で楽しかった。

2) 消費者月間フェア2016

活動内容：食育体験コーナーでの支援

（食育てんびん「はかるくん」、触ってみよう、匂ってみよう）

活動日時：平成28年5月28日（土） 11時～17時

場 所：ゆめタウン佐賀セントラルコート1階（佐賀市）

対 象 者：来場者（約4,700名）

活動者数：あすなろ隊3名、教職員3名

依 頼 元：佐賀県くらしの安全安心課・佐賀市生活安全課



《あすなろ隊の感想》

- ・子供達と直接触れ合い、体験することで子供達が食について考えてくれるのが嬉しかった。様々な年代の方と接することができて、とてもいい経験になった。
- ・小さい子供にはどうやったら伝わるか考えてやったが、難しかった。

3) 神崎市子どもまつり

活動内容：食育体験コーナーでの支援

（食育輪投げ、野菜クイズ、魚釣りゲーム、触ってみよう）

活動日時：平成28年5月29日（日） 9時～16時

場 所：神埼中央公園体育館1階多目的室（神崎市）

対 象 者：来場者（416名）

活動者数：あすなろう体験10名、教職員5名

依 頼 元：神崎市子どもまつり実行委員会



《あすなろ隊の感想》

- ・何回も繰り返し来てくれる子供がいてやりがいがあった。
- ・たくさんの方々とは接する事で子供との接し方などたくさんの事が学べて良かった。
- ・自分も含め、周りのあすなろう隊員も子供達と一緒に楽しめていたと思う。

4) 佐賀県立鳥栖工業高等学校定時制での食育講話

活動内容：食育講話

活動日時：平成 28 年 6 月 16 日（木） 17 時 30 分～19 時

場 所：鳥栖工業高等学校（鳥栖市）

対 象 者：生徒（57 名）、教職員（約 15 名）

活動者数：あすなる隊 4 名、事前指導教員 1 名、引率 1 名

依 頼 元：鳥栖工業高等学校定時制



《あすなる隊の感想》

- ・今までの活動とは全く違い、自ら調査し食育講話を開くと言う事はとても大変だった。どれも新鮮で自分のためになった。
- ・事前準備が大変だったが、講義で習っている栄養教育論を実際に自分たちで一から準備し、企画をしてとてもいい経験になった。やりがいを感じるボランティアだった。

5) チャレンジ幸齢セミナー

活動内容：調理実習における補助

活動日時：平成 28 年 6 月 25 日（土） 8 時 30 分～14 時 30 分 A グループ

平成 28 年 7 月 9 日（土） 8 時 30 分～14 時 30 分 B グループ

場 所：西九州大学神埼キャンパス 5 号館第 2 調理実習室

対 象 者：A グループ高齢者：18 名

B グループ高齢者：17 名

活動者数：あすなる隊 4 名、健康栄養学科学生 4 名 教職員 10 名



《あすなる隊の感想》

- ・高齢者の方と話をしながら調理をする機会が今まであまりなかったので良い経験になった。色々な話を聞いたので楽しくもあり、ためになった。
- ・緊張してどうしたらいいか分からず不安だったけれど、みんなで協力して時間内にできて良かった。

6) 小城市普茶料理教室

活動内容：①普茶料理の歴史についての講話

②調理実習のサポート

活動日時：平成 28 年 9 月 2 日（金） 8 時 30 分～14 時

場 所：小城保健福祉センター「桜楽館」（小城市）

対 象 者：小城市民（16 名）

活動者数：あすなる隊 2 名

依 頼 元：小城市役所健康増進課



《あすなる隊の感想》

- ・小城に居ながら普茶料理について知らなかったけれど、活動を通して普茶料理がどのようなもので、とういったルーツで日本に広まっていったかを知ることができて良かった。将来の夢に向かっていく中でとても良い勉強になった。

7) 神埼保育園でのお茶教室

活動内容：煎茶の淹れ方のサポート

活動日時：平成28年9月7日（水）13時30分～16時30分

場 所：神埼保育園（神崎市）

対 象 者：園児（13名）

活動者数：あすなろ隊5名、教職員2名

依 頼 元：NPO 法人活気会 食育部会



《あすなろ隊の感想》

- ・お茶を入れるときのおもてなしの心などを学ぶことができた。
- ・栄養士の方の講話を聞いて、絵や文字の使い方や興味を惹くような話し方が勉強になった。煎茶の淹れ方もこれから活用していきたい。
- ・初めて活動に参加して、学校で体験できないような交流ができ良い経験になった。

8) NPO 法人日本健康運動士会 九州ブロック事業佐賀県大会

活動内容：食育体験コーナーでの補助（食育 SAT システム）

活動日時：平成28年10月2日（日）10時30分～17時30分

場 所：佐賀市市村記念体育館（佐賀市）

対 象 者：来場者（約200名）

活動者数：あすなろ隊1名

依 頼 元：日本健康運動士会 佐賀県支部



《あすなろ隊の感想》

- ・活動の来場者は運動に関心がある年配の方が多く、それぞれのライフスタイルに合わせた栄養指導をする管理栄養士の方の話聞くことができ、勉強になった。

9) ばぶばぶフェスタ

活動内容：食育体験コーナーでの支援

（食育すごろく、匂ってみよう、触ってみよう）

活動日時：平成28年10月16日（日）9時30分～16時30分

場 所：佐賀県立男女共同参画センター・アバンセ（佐賀市）

対 象 者：全体の来場者（約14,000名）

活動者数：あすなろ隊1名、あすなろう体験4名、教職員2名

依 頼 元：佐賀県、佐賀新聞社



《あすなろ隊の感想》

- ・子供達と触れ合っコミュニケーション能力が大切なことだと思った。子供達の笑顔や楽しんでいる姿を見て、ボランティアに参加して良かったと思った。
- ・触ってみようのコーナーでは、子供達の分かりやすいヒントを出すのが難しく、自分自身の知識不足を感じた。もっと食材のことを知っておかないといけないと思った。

10) 小城普茶料理食事会～秋

活動内容：伝統料理普及活動の支援（調理・盛り付け・配膳・接待・後片付け）

活動日時：平成 28 年 11 月 20 日（日）9 時～16 時

場 所：小城公民館晴田支館（小城市）

対 象 者：食事会にお越しのお客（約 60 名）

活動者数：あすなろ隊 4 名

依 頼 元：祥光山星巖寺伝承「普茶料理おぎ春香会」



《あすなろ隊の感想》

- ・写真でしか見た事がない普茶料理は、とても見た目がキレイで色鮮やかであり食欲をそそるものだった。初めての接待でお客様と話をすることができて楽しかった。
- ・普茶料理は、動物性の物は使わず工夫をされてとても勉強になった。
- ・お客様の席に料理を持って行くときに質問されたが答えることができて良かった。

11) 日曜糖尿病教室及び糖尿病・肝疾患市民講座

活動内容：食育体験コーナーでの補助（食育 SAT システム、食育てんびん「はかるくん」）

活動日時：平成 28 年 11 月 27 日（日）9 時～14 時

場 所：唐津市民交流プラザ（唐津市）

対 象 者：来場者（約 100 名）

活動者数：あすなろ隊 4 名

依 頼 元：唐津保健福祉事務所



《あすなろ隊の感想》

- ・活動を通して参加者の方とコミュニケーションをとることができた。
- ・糖尿病のことだけでなく、肝炎についても学べて良かった。また医療関係者の方とも様々な話ができて、とても勉強になった。
- ・来場者の方に「管理栄養士になって頑張ってるね」と言ってもらえて嬉しかった。

12) 市民フェスタ 2016 in とす

活動内容：食育体験コーナーでの支援

（食育輪投げ・食育てんびん「はかるくん」）

活動日時：平成 28 年 12 月 3 日（土） 9 時～17 時

場 所：フレスポ鳥栖ウエルカムコート（鳥栖市）

対 象 者：来場者（約 130 名）

活動者数：あすなろう体験 2 名

依 頼 元：NPO 法人とす市民活動ネットワーク



《あすなろう体験の感想》

- ・小さい子供、お年寄りや障害者の方に幅広く触れ合う事ができ、コミュニケーションも勉強になった。ゲームを通して、自分でも学ぶことができ良い経験ができた。
- ・たくさんの人の笑顔を見ることができて良かった。

13) 男性・子供の料理教室

活動内容：料理教室の支援

(準備、調理、後片付けの指導・補助)

活動日時：平成28年12月4日(日) 8時45分～13時15分

場 所：佐賀県立男女共同参画センター・アバンセ(佐賀市)

対 象 者：小学校2～4年生とその父親(12組)

活動者数：あすなろう体験2名

依 頼 元：佐賀県立男女共同参画センター・アバンセ



《あすなろう体験の感想》

- ・子供達に教えたら、「分かった」と言って包丁を上手く使用して食材を切っていて、楽しそうにしているのを見ると自分も嬉しい気持ちになった。楽しく活動できた。
- ・調理では前回のボランティアの反省点を活かして活動できた。

14) ほっとひろば西九大 クリスマス会

活動内容：クッキングコーナーでの支援

(デコレーションケーキ作り)

活動日時：平成28年12月17日(土) 9時30分～14時

場 所：西九州大学佐賀キャンパス(佐賀市)

対 象 者：0歳児～高校生(12名)

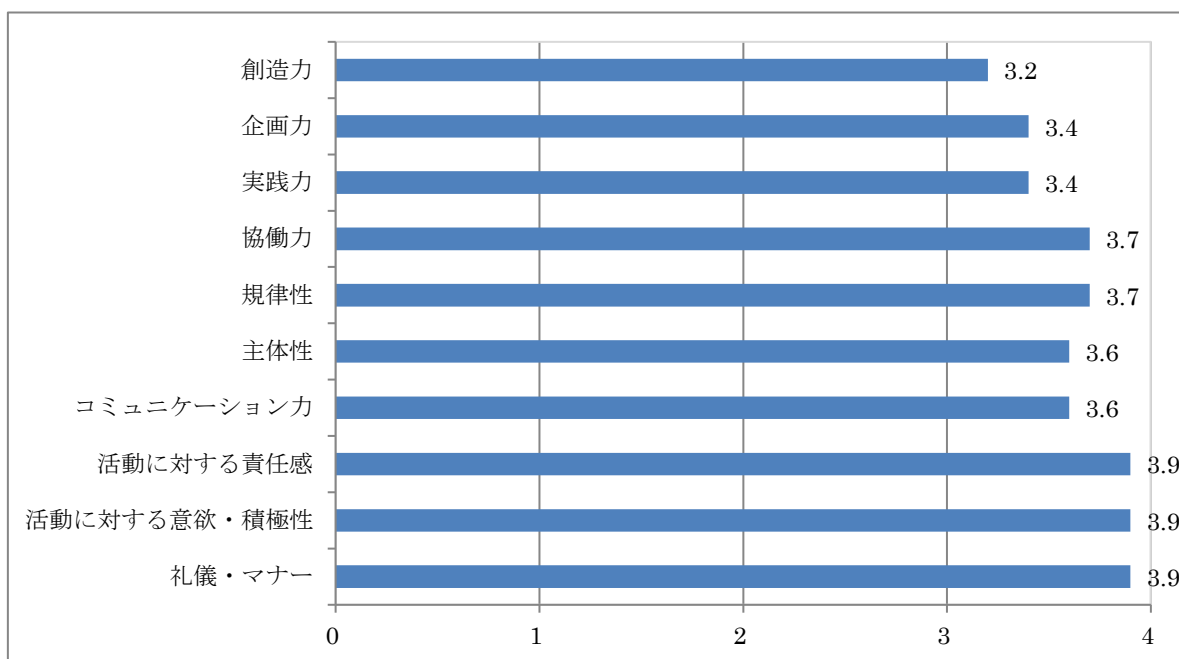
活動者数：あすなろ隊2名、健康栄養学科学生2名、教職員2名



《あすなろ隊の感想》

- ・子供達とコミュニケーションを取りながらデコレーションケーキを作るのはとても楽しかった。今回学んだことを次に活かしたい。
- ・初めて活動に参加して、子供達が楽しそうにケーキを作っている姿を見れて良かった。
- ・普段子供と触れ合う機会がないため、刺激的だった。

◇◆◇ 学生食育ボランティアあすなる隊派遣に関する派遣先からの評価 ◇◆◇



(評価方法)

対象：平成 28 年度学生食育ボランティアあすなる隊派遣先 8 団体

方法：④十分に備えている ③ある程度備えている ②あまり備えていない ①全く備えていない

学生食育ボランティアあすなる隊派遣先からのコメント

- ・参加者及びおぎ春香会の方々と、積極的にコミュニケーションをとられており、大変良かったと思います。ありがとうございました。今後も市の食育体験教室に御協力頂ければと思っています。
- ・学生さんが SAT システムを対応するのは 2 回目という事でしたが、落ち着いて対処して頂きスムーズに事業を進めることができました。ありがとうございました。
- ・一生懸命子供達に接し、内容を理解していました。担当者の話にも真摯に耳を傾け素直さを感じました。これからの努力、活躍を期待します。
- ・初めてのことで大変だったと思います。いつも御協力ありがとうございます。
- ・調理のサポートに加え、準備から片付けまでありがとうございました。慣れない場所で大変だったと思いますが、良くして頂きました。今後ともよろしく願い致します。

3. 活動報告③ (学園祭)

活動内容：食育体験コーナー

(非常食の展示・実演、食育すごろく、魚釣りゲーム、匂ってみよう、
触ってみよう、食育てんびん「はかるくん」)

活動日時：平成 28 年 10 月 22 日 (土)・23 日 (日) 9 時～16 時 30 分

場 所：西九州大学神埼キャンパス コミュニティホール

対 象 者：約 100 名 (食育体験コーナー来場者)

活動者数：あすなる隊学生 5 名、あすなろう体験学生 7 名、教職員 9 名

◆非常食の実演



◆非常食・備蓄食材の展示



◆食育すごろく



◆魚釣りゲーム



◆食育てんびん「はかるくん」



◆匂ってみよう



◆触ってみよう



《あすなる隊の感想》

- ・初めて非常食を作って、とても良い経験ができた。被災地の人の大変さや普段食べている温かい食事の有難さを改めて実感した。
- ・災害時の調理を実演してみて、色々な人に実演した方法を知って欲しいと思った。災害食を食べる機会もなかったため、試食してみて少し地震の被災地の人々が食べている物などについて知れて良かった。自分も学ぶことができた。
- ・災害食は思っていたより美味しくできて良かった。来場者の方に説明をするのは難しかったが、良い経験になった。

4. 活動報告④（食育活動「食まなび塾」）

目的 本学学生の地域でのボランティア活動により、児童に食育で育みたい力（マナー、料理のスキル、食文化など）を楽しく、実践させることを目的とする。

実施主体 吉野ヶ里町・西九州大学食育サポートセンター

開催日時 1回目：平成28年8月18日（木）10時～12時
2回目：平成28年8月26日（金）10時～12時
3回目：平成28年9月3日（土）10時～12時

開催場所 吉野ヶ里町三田川児童館（吉野ヶ里町吉田58番地1）

対象者数 園児・小学生 13名
（園児1名、小学1年生2名、2年生4名、小学3年生4名、4年生2名）

回	内 容	
1回目	○食事のマナーについて	○手洗いについて
2回目	○味覚（旨味）体験	○だしについて
3回目	○おやつについて、野菜について	○おやつ作り

活動者数

あすなる隊7名 教職員3名

評価

1回目は、正しい手洗いの方法や箸の持ち方、食器の並べ方等食事マナーについて学ぶとともに手洗い体験をしてもらった。2回目は味覚（旨味）について様々な手づくり教材を使って学習した後、かつお節を自分たちで削ることや、五つの基本味についても体験してもらった。3回目は、おやつについてと野菜を食べる大切さを学習し、野菜を使ったおやつの調理実習を行い、料理をすることの楽しさや野菜を食べる体験をしてもらった。

講座の内容や使用教材は、あすなる隊を中心に考案した。子ども達の反応や取り組み姿など児童との交流を通して学んだことも多く、課題と反省もあった。この経験を学生主体の食育活動としていかに取り入れていくか今後の進展に期待したい。



《あすなる隊の感想》

- ・小学生に教えることで、改めて自分も手洗いの大切さや食事のマナー、味について学べたので良かった。
- ・対象者に合った知識が提供できるように色々な活動にこれからも参加していきたい。
- ・食に関することを人に教育する難しさを学んだ。

5. 活動報告⑤ (学生の教材作成の活動)

◎「紙芝居作成」の活動報告

活動内容	「海苔ができるまで」の紙芝居作成
活動日時	平成28年6月21日(火)～平成29年3月31日(金) 活動回数24回
活動場所	西九州大学神埼キャンパス
対象者	保育園児
活動者数	あすなる隊7名、教職員2名
依頼元	佐賀県有明海漁業協同組合 南川副支所
活動の流れ	有明海の海苔が出来るまでの過程のDVDを見て、保育園児に分かりやすいように紙芝居を作る。まずは紙芝居の登場人物を決め、海苔が出来るまでの話の流れを作り、下絵を作成する。下絵が完成した段階で、佐賀県有明海漁業協同組合の方へ確認し、登場人物のペーパーサートと紙芝居作成の色塗りまでを行う。平成29年度は出来上がった紙芝居を実際に保育園で使用したいと佐賀県有明海漁業協同組合より依頼されている。

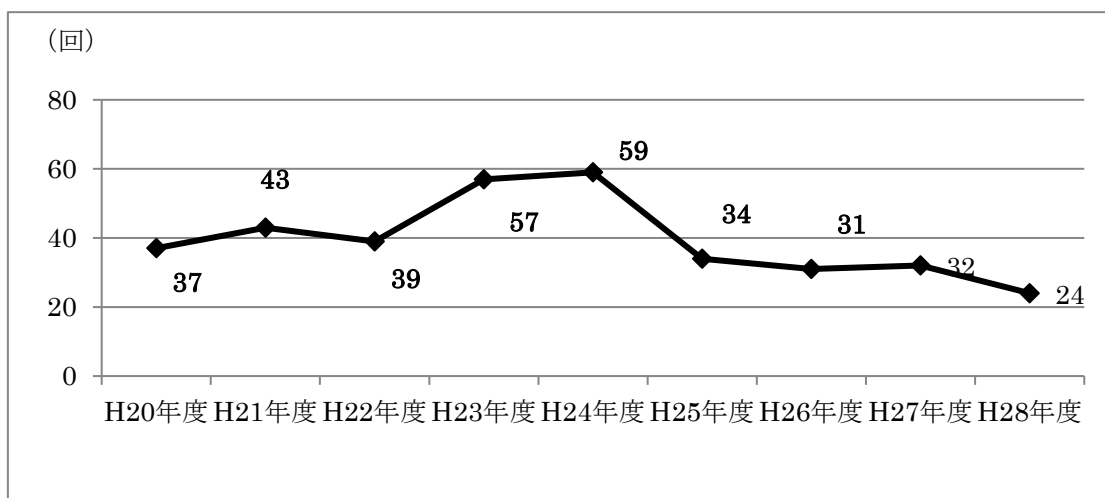
評価

紙芝居を作成するにあたり、「有明海の海苔が出来るまで」のDVDを見た。身近な海苔であるが、あまりにも知らないことが多く、疑問がいっぱい湧いてきていたので、様々調べ学習を行った。このDVDでは園児には伝わらないので、どのような紙芝居だと園児が興味を持って聞けるか、理解できるかを考えながら作業を行っていった。海苔の作業の専門用語は難しく、噛み砕いてセリフにすること、園児の知識や生活体験に落とし込んでいくよう心がけた。あとは、佐賀海苔のおいしさや佐賀の特産物への愛着、生産者への感謝の気持ちも盛り込んだ。作業はまだ途中であるが、春に向けて完成を目指している。この体験を通じて、園児への教育手法を学び、学生自身、佐賀海苔への理解を深めることが出来たと考える。



6. 教材の貸出状況

◆教材貸出回数の年次推移（平成 20 年度～平成 28 年度）



① 食育 SAT システム（貸出回数 5 回）

貸出先	利用目的	貸出回数
やよいがおか鹿毛病院	事業（お仕事探検隊）	1 回
日本健康運動士会佐賀県支部	事業（NPO 法人日本健康運動士会九州ブロック事業佐賀県大会）	1 回
唐津保健福祉事務所	事業（日曜糖尿病教室及び糖尿病・肝疾患市民公開講座）	1 回
西九州大学健康栄養学部	事業（創立 70 周年記念式典）	1 回
伊万里保健福祉事務所	イベント（いまり食のまちづくりフォーラム）	1 回

（貸出風景）

NPO 法人日本健康運動士会
九州ブロック事業佐賀県大会



日曜糖尿病教室及び
糖尿病・肝疾患市民公開講座



② フードモデル（貸出回数 2 回）

貸出先	利用目的	貸出回数
佐賀県立金立特別支援学校	授業	1 回
西九州大学健康栄養学部	授業	1 回

③ 食育天びん“はかるくん”（貸出回数 6 回）

貸出先	利用目的	貸出回数
やよいがおか鹿毛病院	事業（お仕事探検隊）	1 回
西九州大学健康栄養学部	授業	1 回
久留米市保健所	イベント（久留米大学学園祭）	1 回
唐津保健福祉事務所	事業（日曜糖尿病教室）	1 回
西九州大学健康栄養学部	事業（創立 70 周年記念式典）	1 回
NPO 法人 とす市民ネットワーク	イベント（とす市民フェスタ 2016）	1 回

（貸出風景）

とす市民フェスタ 2016



久留米大学学園祭



④ その他の教材（貸出回数 11 回）

貸出教材名	貸出先	利用目的	貸出回数
	佐賀市若楠小学校	授業	1 回
	神崎市役所	栄養教育	1 回
	NPO 法人 とす市民ネットワーク	イベント （とす市民フェスタ 2016）	1 回
	小城市立牛津小学校	授業	1 回
野菜クイズ （1 回）	西九州大学 グローバル西九州サークル	イベント（学園祭）	1 回
食育すごろく （2 回）	西九州大学 ESRD サークル	事業（あそびフェスタ、 障害者いきいきサロン）	2 回
グリッターバグ （1 回）	神崎市役所	栄養教育	1 回
魚釣りゲーム （1 回）	小城市立牛津小学校	授業	1 回
消化器について 知ろう（1 回）	神崎市役所	栄養教育	1 回
お箸の持ち方 （1 回）	西九州大学健康栄養学部	授業	1 回

(貸出風景)

教材：消化器について知ろう

神崎市役所（公立保育園 3 園での栄養教育）



◎貸出先からの感想

食育 SAT システム

- ・対象者にも視覚的に分かりやすく、食事の結果を印刷して持ち帰ってもらえたため良かった。
- ・健康に良いものを気掛けて食べていたが、野菜不足や塩分がおおいことが分かって良かった。簡単に測定できて良かった。
- ・リアルな教材を使用したことにより、分かりやすく楽しく学習することが出来ていた。
- ・対象者の関心も高く好評だった。
- ・保育園児から 79 歳の高齢者まで多くの方が興味を示し、とても好評だった。

食育天びん “はかるくん”

- ・高校生達はとても熱心で、食べ物と運動量の関係を改めて知り、感心していた。
- ・ゲーム感覚で、簡単に食事のエネルギーと運動で消費できるエネルギーを理解できるため、子供から大人まで楽しんで参加されていた。
- ・一般の方にも理解しやすい媒体で、参加者の方も興味を持って体験されていた。
- ・普段食べているおやつが思った以上にカロリーが高いのにびっくりされていた。

その他の教材

- ・箱の中に手を入れて、大きさや形、かたさを感じながら楽しく学習が出来た。(はてなボックス)
- ・子育て中の家族に特に好評で、遊び感覚で食育が学べた。(食育輪投げ)
- ・普段の手洗いでは、洗い残しがあることが分かった。手洗いの大切さが分かった。(グリッターバッグ)
- ・腸の長さや消化器の仕組みを知り、園児は興味を持って話を聞いていた。(消化器について知ろう)